

研究主題 「ふるさとを愛し自分を見つめ、よりよく 生きようとする心豊かな児童の育成」

～考え、議論する道德科の授業を通して～

長瀬町立長瀬第二小学校

1 研究主題の設定理由

グローバル化の進展、情報通信技術・科学技術の急激な進歩、かつてないスピードでの少子高齢化の進行など、児童を取り巻く社会環境が大きく変化している。このような中で、一人一人が道德的価値の自覚のもと、自ら感じ、考え、他者と対話し、協働しながら、よりよい方向を目指す資質・能力を備えることが重要になってきている。そして、こうした資質・能力の育成に向け、道德教育にはこれまで以上に大きな役割が期待されている実情がある。

そこで、本校では、自我関与が中心の学習活動、問題解決的な学習活動、体験的な学習活動等の中から教材にふさわしい学習指導を分析する。そして、答えが一つではない道德的な課題を自分自身の問題として捉え、多様な考えを主体的に交流する、「考え、議論する道德」を目指して指導方法の改善を図る。道德教育の要としての道德の時間の充実を図り、よりよく生きるための基盤となる道德性を養っていく。また、本校の特色である家庭・地域とのつながりや豊かな体験活動を積極的に活用して、地域への感謝の気持ちと郷土愛の育成を図っていく。これらの取組を通して、ふるさとを愛し自分を見つめ、よりよく生きようとする心豊かな児童が育成できると考え、研究主題を設定した。

2 研究の仮説

- (1) 道德の授業で、答えが一つでない道德的な課題を自分自身の問題として捉え、物事を多面的・多角的に考える「考え、議論する道德」を実践することで、自分を見つめ、よりよく生きようとする児童を育成する。
- (2) 家庭・地域と連携を図り、豊かな体験活動や地域の人たちとのふれあいを意図的・計画的に仕組むことで、ふるさとを愛する、心豊かな児童を育成する。

3 研究の経過

時 期	内 容
4 月	研究組織、各部部長及び授業者の決定（校内研修） 模擬授業の実施（2年）
5 月	授業づくりシートの検討、資料準備
6 月	指導案検討
7 月	道德アンケートの実施（1回目）、結果の分析 第1回授業研究会（5年）
9 月	指導案検討 第2回授業研究会（3年）
10 月	道德アンケートの実施（2回目）、結果の分析 プレ研究授業（1・4・6年）
11 月	指導案検討、環境整備、研究紀要の作成 道德モデル校授業発表
12 月	研究のまとめ（各部ごとの成果と課題） 今後の研究の方向性についての確認

4 研究の内容

(1) 授業づくりシート

- 授業で児童に気付かせたい価値を「本時のねらい」に含め、より具体的にねらいに迫れるようにした。
- 決まった形を作り、より簡単に書けるようにした。
- 児童の実態に応じて本時のねらいを書けるようにした。
- 主な学習活動を記入することで授業全体を見通すことができるようにした。

- 指導の工夫の項目は、学習指導要領を参考にしている。
- 授業で活用したい項目には丸をつけ選択し、さらに詳しく書きたいものは記述できるようにした。

9月11日 第11回 道徳科授業づくりシート

【教材について】
 主題名：正しいことは、は、まっとうな
 内容項目：A 善悪の判断 善悪の是非
 教材名：「心に響くおとぎ話」(新編道徳 道徳 1年 1巻)
 児童の実態：おとぎ話に興味がある。おとぎ話の登場人物の心情に共感できる。おとぎ話の登場人物の心情に共感できる。

【本時のねらい】
 ※ (A) を満たして、(B) に気付かせる(について書かす)、(C) を育てる。
 (A) 自分自身を振り返り、考えさせたいこと、伝えたいこと。
 (B) 自分自身の生活場面から、おとぎ話、おとぎ話の登場人物の心情に共感できる。
 (C) 自分自身の生活場面から、おとぎ話、おとぎ話の登場人物の心情に共感できる。

私の描いたおとぎ話の登場人物の心情に共感できる活動を通して、おとぎ話の登場人物の心情に共感できる。時にはおとぎ話のおとぎ話の登場人物の心情に共感できる。時にはおとぎ話のおとぎ話の登場人物の心情に共感できる。

【中心的な発問】
 あなたがアルベルトだったら、がオルグだったら、つづきかかわりそうじゃないか。
 何と声かけますか。おとぎ話の登場人物の心情に共感できる。

【指導の工夫】(PB4)

教材を提示する工夫	写真 映像 音声 紙芝居 読み聞かせ ペーパーアート
発問の工夫	自分自身から考えることができる。正しいこと、悪いこと、人々に伝えることができる。おとぎ話の登場人物の心情に共感できる。
話し合いの工夫	ペア グループ
書く活動の工夫	ワークシート あなたがアルベルトだったら、がオルグだったら、おとぎ話の登場人物の心情に共感できる。おとぎ話の登場人物の心情に共感できる。おとぎ話の登場人物の心情に共感できる。
表現活動の工夫	役割演技、ペーパーアート
板書を生かす工夫	対比表、心図、絵画、思考の流れ
板書の工夫	自分自身を振り返り、考えさせたいこと、伝えたいこと。
その他	教科書最後の文章は、授業の終わりに読む。

【評価の観点】

	評価観点	評価の観点
物事を多面的・多角的に考える	話し合い	D 様々な視点で物事を考えようとしている。
道徳の価値についての理解を自分の関わりで深める	ワークシート	C 友達の考えをしっかり聞き考え方を理解しようとしている。
	より盛り	B 自分自身を振り返り自分の考えを見直そうとしている。
	中心発問	A 自分だったらどうするかなど自分事として書いている。

【教師の自己評価】 ◎○△

- ・ねらいにせまるための発問構成は適切だったか。 ◎
- ・児童は多面的・多角的に考えていたか。 ○
- ・児童は自分事として考えていたか。 ○

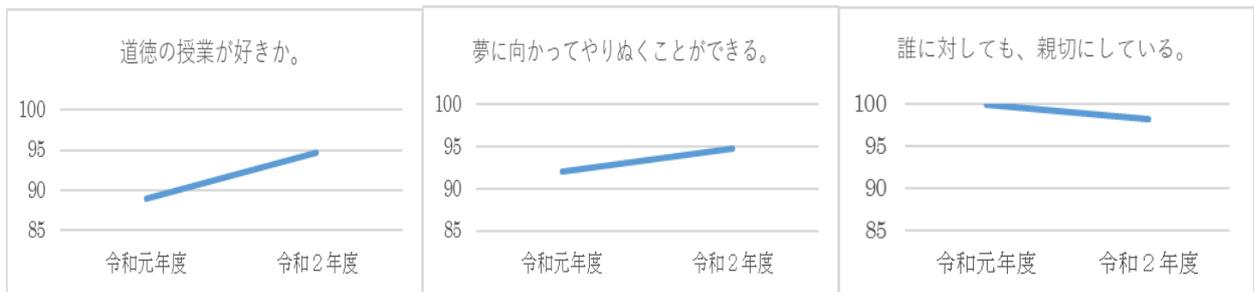
- 評価補助簿の評価の視点と関連させ、評価する場面を明確にした。
- 授業づくりシート・板書写真は各学年でファイルに蓄積して活用できるようにした。

(2) ねらいにせまる指導の工夫と授業の流れ



- 授業の流れを縦軸に、指導の工夫を横軸にまとめた。
- 自我関与の場面と多面的・多角的に考える場面を授業の手立てとして明示した。

(3) 道徳意識調査



- 全教職員が道徳の授業に意欲的に取り組んだ結果、「道徳の時間が好きですか。」の意識調査で向上が見られ、全体的に95%以上の高い結果となった。
- 他者との関わりについての肯定意見の減少は、コロナ禍の影響で友達との関わりが少なくなかったことも影響していると考えられる。

(4) 道徳掲示物

令和2年度 授業実践 第3学年 坂本七海教諭 9月11日実施

授業づくりシート

9月11日 第3日 道徳科授業づくりシート

学習の流れ

評価の視点

【授業を多面的・多角的に考える様子】
 ・正しいと思ったことと自信をもって行おうとするときの心算について、多面的・多角的に考えていた。
 【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】
 ・間違っていることを、はっきり「間違っている。」と言うことについて、自分の生活を振り返り、再確認に考えていた。

☆ルールをまもろう☆

1年生 みんなのこうえんであそぼう

こうえんは、こどもやおとな、おとしよりなどたくさんの方とがつかうばしょです。
 みんながつかうこうえんには、どんなやくそくやきまりがあるのでしょうか。やくそくやきまりは、みんながあんしんしてせいかつするために、とてもいせつなことです。
 みんながなかよく、たのしいじかんをすごせるといいですね。

けがをしないように、ただしいのりかたで、たのしくあそんでいるね。

じゅんばんをまもっているよ。「あと10かいこいだらこうたいね。」とルールをきめたんだね。

- 研究授業後に授業実践パネルを作成し、教職員一人一人が授業を振り返り、研究を共有することができた。授業改善や実践につなげ研究を深めることができた。
- 各教科等における道徳教育についての児童向け掲示物を作成した。道徳の時間の学習だけでなく、様々な教科や学校行事等、学校生活全般に関連していることを、児童自身が意識できることをねらいとして校内に掲示した。

(5) 彩の国の道徳

- 年間指導計画に従い、月予定表に各学年の道徳の主題および教材名を掲載した。その際、彩の国の道徳の内容については特にわかりやすく表した。

【3年】

- 「パラリンピックにねがいこめて」
- 「わらじ作り」
- 「集むしのボランティア」
- (彩の国どうとく「みんななかよし」)
- 「ハチドリのはたとしづく」

【4年】

- 「ハレン・ケラー物語」

(6) 地域との連携



- 登下校や読み聞かせ、各教科のゲストティーチャー等では、学校応援団をはじめとした地域の方々が様々な児童の活動を支えている。

5 研究の成果と課題

(1) 成果

- ・ 授業づくりシートや評価補助簿、ふり返しシート等の研究を通して、授業方法を工夫したことで全教職員の授業力向上が実現できた。
- ・ 授業づくりシート・板書写真を蓄積することで、授業改善に生かし、シートと評価補助簿をリンクすることで、指導と評価の一体化を図ることができた。
- ・ 児童の実態に応じて、適宜道德の掲示を行ったり授業づくりシートを用いた教材研究を行ったりすることで、道德を身近なものとして捉え、道德的心情を養うことができた。
- ・ 地域の人々との体験活動やふれあう機会によって、小規模校による経験の少なさを補い、豊かな心を育成することができた。

(2) 課題

- ・ 児童一人一人が、より一層道德に興味・関心をもつような掲示物を工夫する必要がある。
- ・ 「考え、議論する道德」への転換に向けた指導力向上のために、今後も研究を深める必要がある。
- ・ コロナ禍での「考え、議論する」授業の方法や児童同士の関わりについて研究を深める必要がある。
- ・ 新型コロナウイルスによる影響の下、家庭や地域の方々との交流や体験活動の回数が、当初の計画よりも大幅に削減せざるを得なくなった。